

Book Review

口腔カンジダ症薬物療法の指針 —治療とケアに役立つ基礎と臨床—

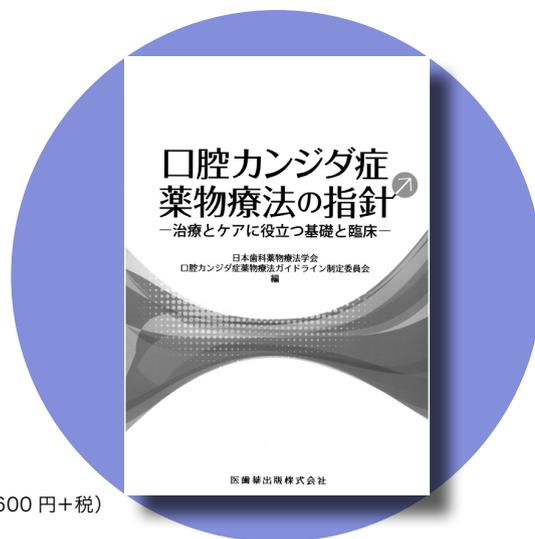
日本歯科薬物療法学会
(口腔カンジダ症薬物療法ガイドライン制定委員会) 編



Reviewer

安部 茂 Shigeru Abe
(帝京大学 医真菌研究センター)

B5判, 72頁
オールカラー
定価(本体 3,600円+税)
医歯薬出版刊



現在、わが国では世界に例を見ない人口の高齢化が急速に進んでおり、免疫不全を伴う高齢者への適切な医療対応が望まれている。なかでも、本来常在菌としてヒト腸管に存在しているカンジダ菌がさまざまな健康障害を引き起こし、口腔衛生状況を悪化させることが大きな問題となっている。口腔カンジダ症はその典型的な疾患であり、その予防・診断・治療の重要性は、今まで以上に認識されるようになってきた。本書の出版はその時宜を得たものと言えるだろう。

本書は日本歯科薬物療法学会の金子明寛先生、上川善昭先生が中心となり、わが国の歯科診療の最前線で活躍している十余名の専門家が、口腔カンジダ症の詳細な解説とともに、その薬物療法の在り方について提言した貴重

な指針である。

本書は歯科医だけではなく、口腔ケアに関わる多くの医療関係者にとって、日常診療・看護・介護業務で感じるさまざまな疑問に答え、患者への正確な説明に役立つ内容となっている。特筆すべきは豊富な症例写真が提示され、日頃は口腔カンジダ症になじみが少ない診療科の医師、看護師などにも理解しやすく書かれていることである。また、鶴見大学の前田伸子先生が細菌学的な解説をしており、臨床のみならず基礎医学的な立場からも、感染症としての病態の理解ができる構成となっている。

口腔カンジダ症の診断における真菌検査の重要性、患者背景別の本症の症状および関連する疾患の解説もまた、臨床現場において役立つものである。

後半は薬物療法について、それぞれの専門家が実際の臨床現場での使用を考慮に入れて詳述しており、治療に即した内容となっている。ぜひ歯科領域だけでなく、高齢者医療に携わる医療関係者に読んでいただき、本書を座右の一冊としていただきたい。そして、よりの確な口腔カンジダ症の診療治療ができることを期待したい。

さらに願うならば、今後、本書を土台として、診断-治療アルゴリズムを作っていただけないだろうか。さらに口腔カンジダ症は口腔だけの疾患ではなく、消化器へのカンジダの拡散・定着・増殖を伴う健康障害と関わり合うという観点から、患者の全身的な健康とカンジダに対する薬物療法の在り方などに範囲を広げていただけたらと願う。